

(書式 2)

## 学会参加報告書

提出日 2019年 10月 11日

学籍番号	18PDA05	所属	トレーニング科学系
氏名	坂部 崇政		
学会等名（正式名称）	15th European Congress of Sport & Exercise Psychology		
開催日程	2019年7月15日～2019年7月20日		
開催場所（国・都市名）	Germany・Muenster		
発表演題名	Effect of differences in relevance between video and observer on attention		
参加報告 ・項目別に具体的に記載する。	<p>＜学会の全体の印象＞ 自身、ヨーロッパスポーツ心理学会への参加は初めてであったが、演題数の多さや会場となった大学の規模に圧倒された。発表の内容としては、モチベーションやイメージに関する研究が多い印象を受けた。日本からも十数名の先生が参加しており、ヨーロッパの地で研究についてディスカッションすることもできた。</p> <p>＜自分の研究と関連した発表とその内容＞ 自身の研究とは直接的に関連しないが、競技レベルの異なるバイアスロン選手に対する生理学的疲労と注視行動の影響について実験した研究が興味深かった。この研究によると、運動強度の上昇に伴い生理的疲労（血中乳酸）も増加したが、エリート群はサブエリート群よりも射撃時間が短いことが示された。</p> <p>＜自身の発表への質問・コメント＞ 本学会では、映像と観察者の関連度の違いが映像への関心および処理資源に与える影響について発表した。脳波を指標に用いたことから、実験プロトコルや評価基準についての質問を受けた。海外での発表を通して感じることは、たとえ自分の専門領域でなくても興味も持てば積極的に質問やコメントをくれるということである。私自身、研究の原動力として興味関心を大切にしているので、この姿勢を持ち続けていきたいと思う。</p>		

※ 補助金を受けた学生はこの学会参加報告書を提出すること。

提出期限は学会終了後2週間以内とする。

本報告書は学会参加報告書として日本体育大学総合スポーツ科学研究センターホームページ内に掲載されます。